

宮城県の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの調査概要（平成 29 年 3 月 24 日実施）

平成 29 年 3 月 24 日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境及び施設配置

- ①当該農場は、中山間部に位置し、付近には山林や養豚農場がある。また、鶏舎から百数十 m の範囲内に 6 つのため池が散在し、現地調査時、それらの池ではカルガモ、コガモ、ホシハジロ等のカモ類が合計 20~30 羽程度確認された（一番大きいため池は、発生鶏舎から約 100m の距離に位置し、50m×150m 程度の大きさ）。
- ②当該農場には 8 棟の鶏舎（いずれもウインドレスの低床式鶏舎）があり、敷地内に GP センターが併設されている。鶏舎と GP センターの敷地は鎖により分けられ、それぞれの区域に専用の出入口があり、普段は区域間の直接の行き来はない。なお、管理人によると、発症・死亡鶏は鶏舎の出入口から比較的遠い位置の鶏舎中央に固まって確認されたとのこと。

2 管理人及び従業員

- ①当該農場の鶏舎の管理は 4 名で行われ、鶏舎における健康観察や機械の動作確認が主な業務となっている。従業員ごとの担当鶏舎は決められていない。
- ②従業員は農場敷地外にある駐車場に駐車し、農場出入口付近の更衣室で農場専用の衣服と長靴に替えることとなっているとのこと。さらに、鶏舎出入口では踏込み消毒と手指消毒を行ってから鶏舎に入り、さらに、鶏舎内では出入口付近に設置されている各従業員専用の衣服と長靴に替えているとのこと。

3 農場の飼養衛生管理

- ①鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋がされており、野鳥の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。また、農場における給与水は、地下 150m からくみ上げられた井戸水が塩素消毒された上で、パイプによって各鶏舎に供給されている。
- ②管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ③発生鶏舎は、直立 4 段ケージを有する平屋であり、鶏糞は 5 日に 1 回程度、除糞ベルトにより集められ、鶏舎床の開口部を通じて、鶏舎の床下に落とされ、さらに別の除糞ベルトによって鶏舎外へ運び出される仕組みとなっている。
- ④当該農場では、電気やガスのメーターは農場の端に集められ、鶏舎に近づく者を減らす取組がなされている。当該農場に車両が出入りする際には、例外なく動力噴霧機や消毒ゲートによる消毒を行い、また、従業員以外の者が入場する際は、農場出入口において農場専用の衣服や長靴に着替え、手指消毒等を実施し、記録することとしているとのこと。
- ⑤管理人によると、週に 1 回、鶏舎周囲に消石灰の散布を行っているとのこと。

4 野鳥・野生動物対策

- ①発生鶏舎はウインドレスタイプであり、破損箇所は修繕や補強を行うなどの取組がなされていたが、現地調査時、除糞ベルトの鶏舎外への開口部に野生動物が侵入可能と考えられる箇所が認められた。
- ②現地調査時、鶏舎内でネズミや中型哺乳類の糞が確認されたが、管理人によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあり殺鼠剤を設置するなどの対策をとっていたとのこと。

5 死亡鶏の取扱い

管理人によると、死亡鶏は毎日午前中に鶏舎毎に専用の蓋つきポリバケツに入れて鶏舎外に搬出される。容器はすぐに集められ農場外の敷地に搬出され、死亡鶏を別の鉄製容器に移し替え、一時的に保管した後、処理施設に運搬されるとのこと。